



エコアクション21
認証番号 0001441



環境経営レポート

【2023年度】

対象期間：2023年4月 ～ 2024年3月

発行日：2024年4月26日

承認	照査	作成
小林和夫	久保田寿男	田村豊

株式会社 テスコム

目次

■計画の策定（P l a n）

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲（認証・登録範囲）	2
3. 環境経営方針	2
4. 実施体制	3
5. 環境経営目標	4
6. 環境経営計画	8

■計画の実施（D o）

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	10
-----------------------	----

■取組状況の確認及び評価（C h e c k）

8. 環境経営目標の実績と評価	12
9. 環境経営計画の取組結果と評価	19
10. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	21
11. 環境関連法規制等の順守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	22

■全体の評価と見直し（A c t）

12. 代表者による全体評価と見直しの結果	23
-----------------------	----

1. 組織の概要

(1) 会社概要

商号 株式会社テスコム
TESCOM CORPORATION

創立 2005年 5月 6日

代表取締役 小林 和夫

資本金 46,000,000円

所在地 ◆本社
〒192-0073
東京都八王子市寺町29番地8
TEL 042-658-7066 (代)
FAX 042-658-7062
URL <http://www.tescom-net.com>

◆岩手テクニカルセンター (以下「ITC」とする)
〒025-0043
岩手県花巻市上根子字中野37番地
TEL 0198-29-5339

事業内容 データ通信システムの開発・製造
移動体通信のソフトウェア開発
無線通信機器の開発・製造

環境管理責任者 田村 豊

連絡担当者 同上

メール tamura@tescom-net.com

(2) 事業活動の規模

活動規模	単位	本社	ITC	合計
従業員人数	人	11	3	14
床面積	m ²	380	199	579
売上高	百万	234	-	234



2. 対象範囲（認証・登録範囲）、対象期間

- ・対象事業所：本社、I T C
- ・対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日
- ・発行日：2024年4月26日

3. 環境経営方針

マネジメントシステムを確立し、人と地球の環境保全に貢献する。

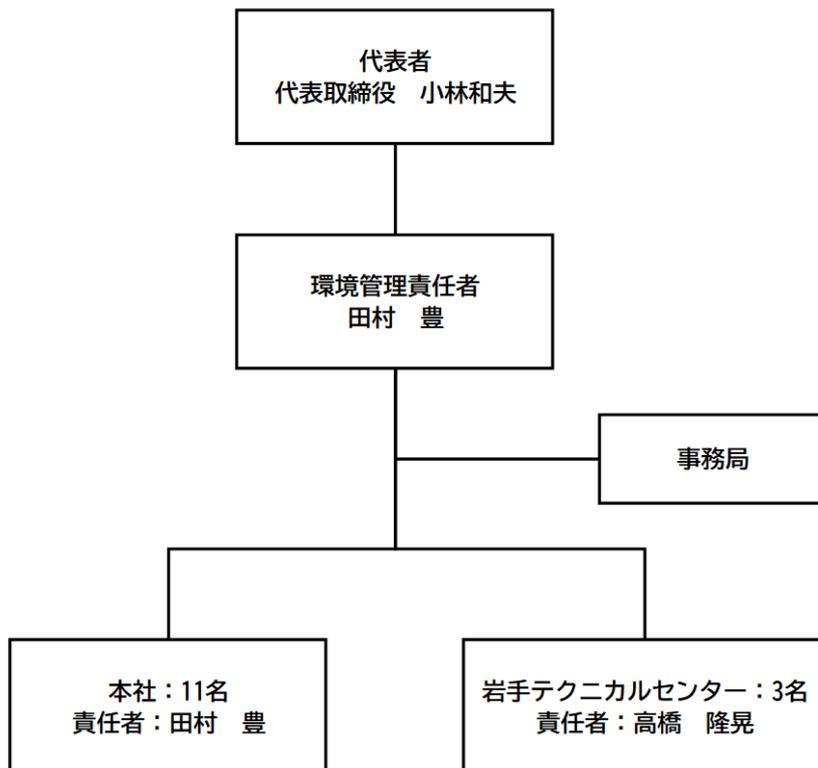
- ・環境経営目標を設定し、企業活動と地球環境保護の両立を図る。
- ・環境負荷に配慮した製品やサービスを提供する。
- ・環境保全に関する法令及び当社が同意する要求事項を遵守する。
- ・環境経営方針や環境管理活動への社員の理解と意識の向上を図るとともに、協力会社などの関係者へも環境方針を周知し、理解と協力を要請する。
- ・省資源、クリーンエネルギー導入などによる省エネルギー化や、リサイクル活動を推進する。
- ・廃棄物の適正管理をする。

この品質・環境経営方針を達成するため、品質及び環境経営目標を設定し、全社員へ周知徹底を図り、適切性の持続のため定期的に見直しを行う。

改定日：2022年4月1日
代表取締役 **小林 和夫**

4. 実施体制

環境経営に取り組むための体制を下図に示します。



役割・責任・権限	
代表者	<p>代表者は当社の環境経営システムの最高責任者として、以下の責任及び権限を負う</p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ②環境管理責任者の任命 ③環境経営目標・環境経営計画・環境レポート等の承認 ④システムの構築・実施・維持に必要な資源（人員、設備、費用など）を準備 ⑤システム全体の評価と見直しを実施し、必要な改善を環境管理責任者に指示 ⑥経営における課題とチャンスの整理・明確化
環境管理責任者	<p>環境管理責任者は、環境経営システムを構築・実施・維持する責任者として以下の責任及び権限を負う</p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境経営目標・環境経営計画の確認・評価 ②環境への自己負荷及び取組みチェック結果の評価 ③代表者への実施状況と社員全員への指示 ④環境経営計画の進捗の確認・評価 ⑤関連法規制の順守状況チェック及び代表者への報告 ⑥是正処置・予防処置の実施を支持し、結果を確認 ⑦環境経営レポートの作成、各文書・記録の承認 ⑧システム全体の見直しに必要な情報を代表者に報告し、指示を実施に移す

役割・責任・権限	
責任者	責任者は、以下の責任及び役割を負う ①資料・掲示物の作成および環境管理責任者へ報告 ②環境への自己負荷及び取組みチェックの実施・見直し ③問題発生に対する是正・予防処置の実施 ④環境記録の管理
事務局	環境管理責任者が統括し、関係者（責任者、事務担当者等）を適宜招集し、環境経営システムの運用上必要となる諸事項に対応する

5. 環境経営目標

SDGsの17項目の目標のうち、自社に関連する項目について取り組みを行っていきます。

関連SDGs目標	
	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。
	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。
	全ての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。
	すべての人々にてごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。
	強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る。
	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする。
	持続可能な消費と生産のパターンを確保する。
	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。
	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。
	陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。
	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する。

関連する目標のうち環境負荷の低減に関しては、次の（１）～（４）の項目に、目標値を設定して取り組んでいきます。基準値は、過去の実績をもとに決定しています。各年度の目標値は、基準値を元に目標削減率を反映した値になります。

（１）総排水量 [m³]

<本社>

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%	3.5%
70	69	68.6	68.3	67.9	67.6

< I T C >

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	9.5%	10.0%	10.5%	11.0%	11.5%
39	35.3	35.1	34.9	34.7	34.5

（２）CO₂排出量 [k g - CO₂]

<本社>

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%	3.5%
108	106.4	105.8	105.3	104.8	104.2

< I T C >

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	9.5%	10.0%	10.5%	11.0%	11.5%
4823	4364.8	4340.7	4316.6	4292.5	4268.4

※CO₂排出量の算出に下記排出係数を使用しています。

◆電気 [k g - CO₂ / kWh]

本社：東京電力エナジーパートナー（2016年度）・・・ 0.474

ネクストエナジー・アンド・リソース（2019年度）・・・ 0.000

I T C：東北電力（2016年度）・・・・・・・・・・・・・・ 0.548

◆都市ガス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.16

◆ガソリン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.32

◆灯油・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.49

CO₂排出量は、使用するエネルギー（電気・ガス・ガソリン・灯油）使用量を元に算出されるので、各項目に対して基準値を設定して、実績と基準値の比較を行います。

●電気使用量 [kWh]

<本社>

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%	3.5%
25000	24625	24500	24375	24250	24125

<ITC>

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	9.5%	10.0%	10.5%	11.0%	11.5%
6200	5611	5580	5549	5518	5487

●ガス使用量 [L] (本社のみ)

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%	3.5%
50	49.3	49	48.8	48.5	48.3

●ガソリン使用量 [L] (ITCのみ)

主に生産工場の訪問で車を利用しており、訪問回数が一定ではないので、基準値=目標値に設定しています。

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	-	-	-	-	-
400	400	400	400	400	400

●ガソリン燃費 [km/L] (ITCのみ)

ガソリンの使用量は状況で増減するので、燃費の基準値を設定しています。

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	-	-	-	-	-
11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1

●灯油使用量 [L] (ITCのみ)

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
		9.5%	10.0%	10.5%	11.0%
200	181	180	179	178	177

(3) 一般廃棄物排出量 [kg]

資源ごみ（段ボールや紙類）については、決まった排出があるわけではないので、基準値との比較は行わずに、排出量の記録を行います。

●可燃ごみ [kg]

<本社>

2022年度から八王子市のごみの分別が変わり、基準値の更新を行いました。
(昨年度の可燃ごみ+不燃ごみの実績の加算値)

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
		1.5%	2.0%	2.5%	3.0%
105	103.4	102.9	102.4	101.9	101.3

<ITC>

基準値	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
		9.5%	10.0%	10.5%	11.0%
54	53.2	52.9	52.7	52.4	52.1

●不燃ごみ [kg]

2022年度から八王子市のごみの分別が変わり、基本的には排出対象がなくなったので、本社とITCともに記録を行います。

(4) 産業廃棄物排出量 [t]

産業廃棄物については、決まった排出があるわけではないので、基準値との比較は行わずに、排出量の記録を行います。

6. 環境経営計画

環境経営目標を達成するための手段として、目標に対する取り組みを下表に記載します。

社内取り組み	SDGs目標
<p>【水道】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗い物は纏め洗いを行い、水や洗剤の使用量を減らす。 ・ 節水コマを使用して、流量を抑制する。 ・ 溶剤を下水道に流さない。 	
<p>【CO2】</p> <p>《電気》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用していない照明、機器の電源をOFFする。 ・ PCやOA機器の省電力設定を行う。 ・ エアコンの設定温度を適切に設定する。 ・ 開発製品の省電力設計を行う。 ・ 工程の作業効率向上を上げて機器の稼働時間を削減する。 ・ CO2排出係数が低い小売業者を選択する。 <p>《ガス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 纏め洗いを行い、無駄な使用を減らす。 ・ 給湯温度を適切に設定する。 <p>《ガソリン》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの実施。 ・ 車両、タイヤの空気圧などの点検を実施して適切な状態にする。 <p>《灯油》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストーブの設定温度を適切に設定する。 	
<p>【廃棄物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物分別の徹底。 ・ 廃棄物の適正処理。 ・ 会議資料の電子化。 ・ 印刷用紙の裏紙使用（両面印刷、メモ帳）。 ・ 梱包材の再利用。 	

社内取組み	SDGs目標
【製品設計】 <ul style="list-style-type: none"> 顧客のニーズに応え、その分野に適した製品設計を行う。 生物、環境に害がない（または低い）ものを選択する。 部品選定時に環境対応品のチェックをする。 省電力設計を行い、長期使用を実現する。 製品に使用するはんだを鉛フリーに変更する 	
【業務／生産効率】 <ul style="list-style-type: none"> 作業の自動化を構築し、作業効率向上を図る。 生産ラインの自動化を構築し、作業時間の短縮と、作業ミスによる不良の発生を減らす。 	
【反社会的勢力】 <ul style="list-style-type: none"> 取引先のチェック。 	

また、業務及び生産効率向上のため、下表の項目について社員各自で評価を行います。その評価を社内で共有して、未達成項目に意識を向けることを目的としています。目標達成率は、各項目80%（管理責任者の判断によります）としています。

項目	取組み
情報ロス	<ul style="list-style-type: none"> 上司／関係者からの指示待ちにならないように、進め方を確認しておく。 報告は関係者全員に連絡する。 不明点は関係者／周囲の人に確認しておく。
作業ロス 停滞ロス 能力ロス	<ul style="list-style-type: none"> 作業を行いやすい環境にするために、作業スペースを整理整頓する。 社内サーバーのフォルダ構造を統一して、情報の検索を容易にする。 共有フォルダに個人的なファイルを置かない。 作業前に手順書などを確認して、やるべきことを整理しておく。 手順書がない場合は、関係者内でやるべきことを確認し、手順書を確立する。 問題の原因を調査して、関係者／周囲に報告し、他で発生しないようにする。 試験データ取得時に、自動化のマクロなどを利用して効率を向上する。
品質ロス	<ul style="list-style-type: none"> 作業完了の判断に必要な項目を確認しておく。 作業の手順書を作成し、作業者ごとに結果に違いがないようにする。 作業の進捗／問題点を報告し、期限の順守に影響がないようにする。

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

社内取り組みの一部を写真で紹介します。

- ・紙類リサイクル



- ・段ボール、梱包材の再利用



- ・廃棄物の分別

製品 ⇒ 廃プラスチック／基板／電池に分別



- ・生産ラインの自動測定／調整環境構築（協力生産工場内）
今年度は新たに、1機種が生産ラインで自動化対応



- ・基板コーティング剤塗布のロボット導入（協力生産工場内）



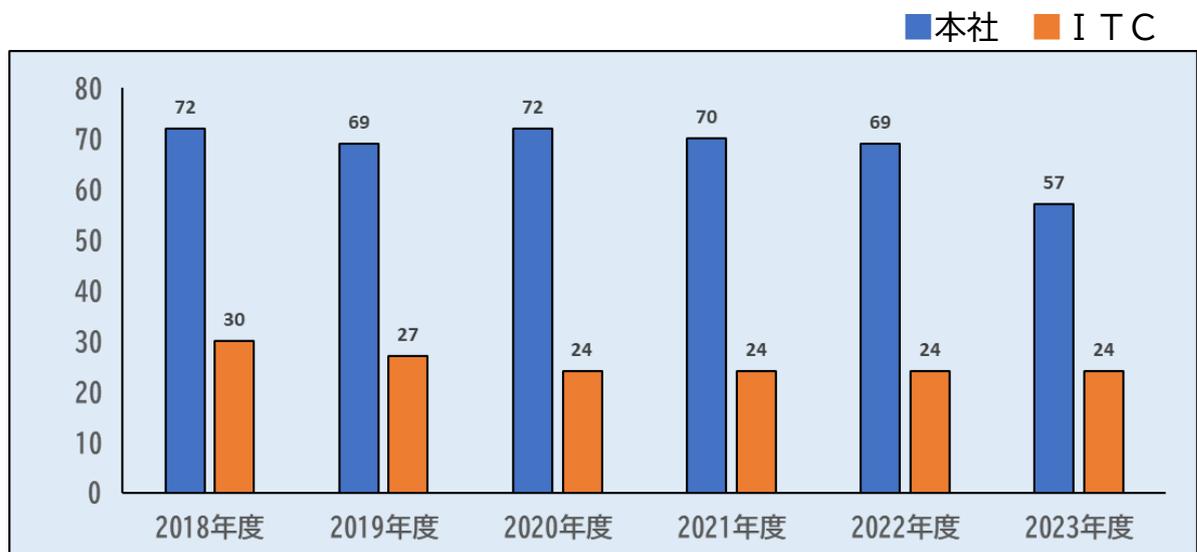
- ・外気遮断を目的に風除室を設置（I T C玄関）



8. 環境経営目標の実績と評価

環境負荷低減項目（１）～（４）の実績は以下のようになりました。

（１）総排水量 [m³]



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	84.6	83.7	82.8	81.9	69.3	69
実績	72	69	72	70	69	57
評価	○	○	○	○	○	○

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022年度
目標値	37.1	36.7	36.3	35.9	35.5	35.3
実績	30	27	24	24	24	24
評価	○	○	○	○	○	○

本社、ITCともに目標達成となりました。

本社は、昨年度から大きく削減できていましたが、基準値はこのままで様子を見たいと思います。

ITCは、現在、下水道料金固定になっているので、流量メータを付けられるか検討します。

(2) CO2排出量 [kg-CO2]



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	75.1	74.3	73.5	72.7	106.9	106.4
実績	88.56	99.36	116.64	123.12	105.84	69.12
評価	×	×	×	×	○	○

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	4582.8	4534.6	4486.3	4438.1	4389.8	4365.7
実績	4537	5069.69	4088.59	3935.02	5059.48	4249.03
評価	○	×	○	○	×	○

本社、ITCともに目標達成できました。

本社では、ガス使用量＝CO2排出量になっていますが、例年に比べ大きく削減できたことが目標達成につながりました。基準値は変更せず、様子を見たいと思います。

ITCは、玄関に風除室を設置して室内の温度変化を防止することで、エアコンの温度設定や風量を抑えることができ、目標達成につながりました。

夏季の風除室の効果を調べるため、基準値の更新は、次年度のデータを確認後にあります。

●電気使用量 [kWh]

■本社 ■I T C



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	31041.3	30714.5	30387.8	30061	24750	24625
実績	27619	23973	24192	24036	25951	22049.7
評価	○	○	○	○	×	○

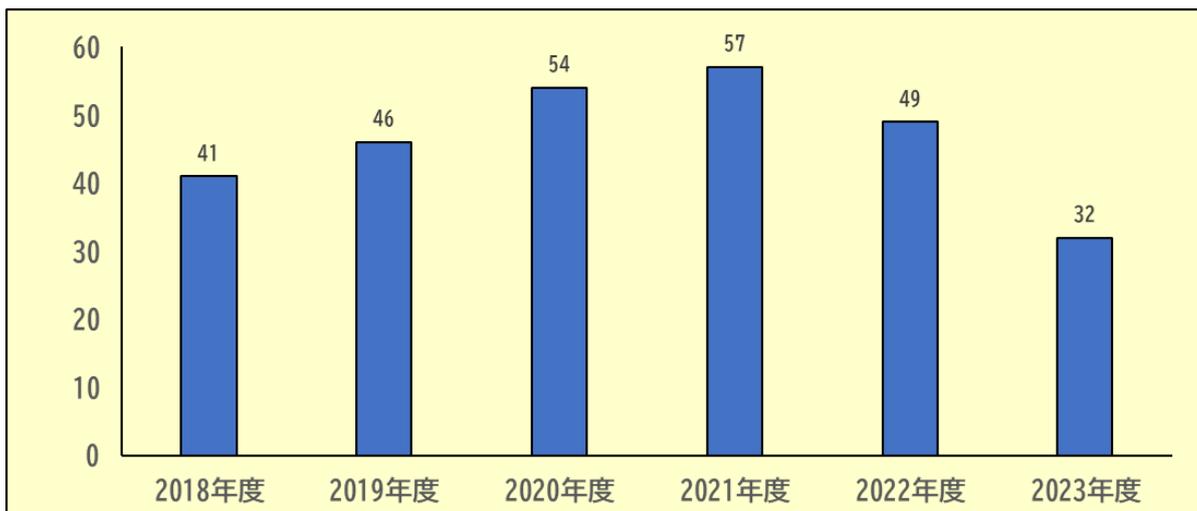
年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	5890	5828	5766	5704	5642	5611
実績	5339	4614	4380	3928	4908	5084
評価	○	○	○	○	○	○

本社、I T Cともに目標達成できました。

本社では、エアコンの設定温度が適切に設定できたことが目標達成につながったと思います。

I T Cでは、CO₂排出量でも記載しましたが、風除室を設置したことでエアコンの温度設定や風量を抑えることができ、目標達成につながったと思います。

●ガス使用量【m³】（対象：本社）



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	34.7	34.3	33.9	33.6	49.5	49.3
実績	41	46	54	57	49	32
評価	×	×	×	×	○	○

目標達成できました。

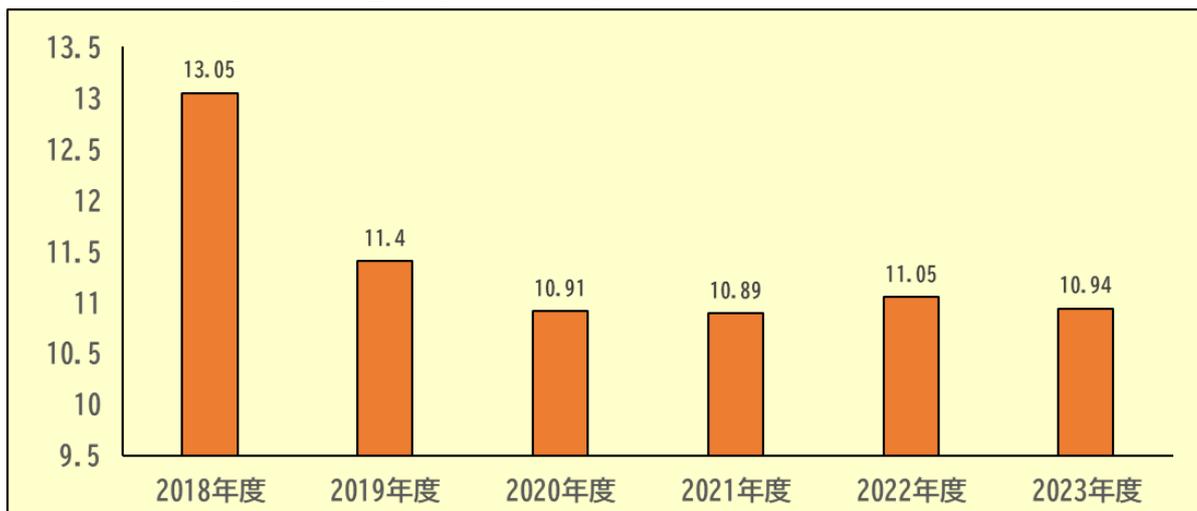
今年度は、まとめ洗いなどを徹底して、給湯器の使用量を抑えたところが目標達成につながりました。昨年度、基準値を更新しましたが、このまま様子を見たいと思います。

●ガソリン使用量【L】（対象：I T C）



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	400	400	400	400	400	400
実績	565.7	1009.49	519.51	566.52	706.18	425.2

●ガソリン燃費 [km/L] (対象：ITC)



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1
実績	13.05	11.4	10.91	10.89	11.05	10.94
評価	○	○	×	×	×	×

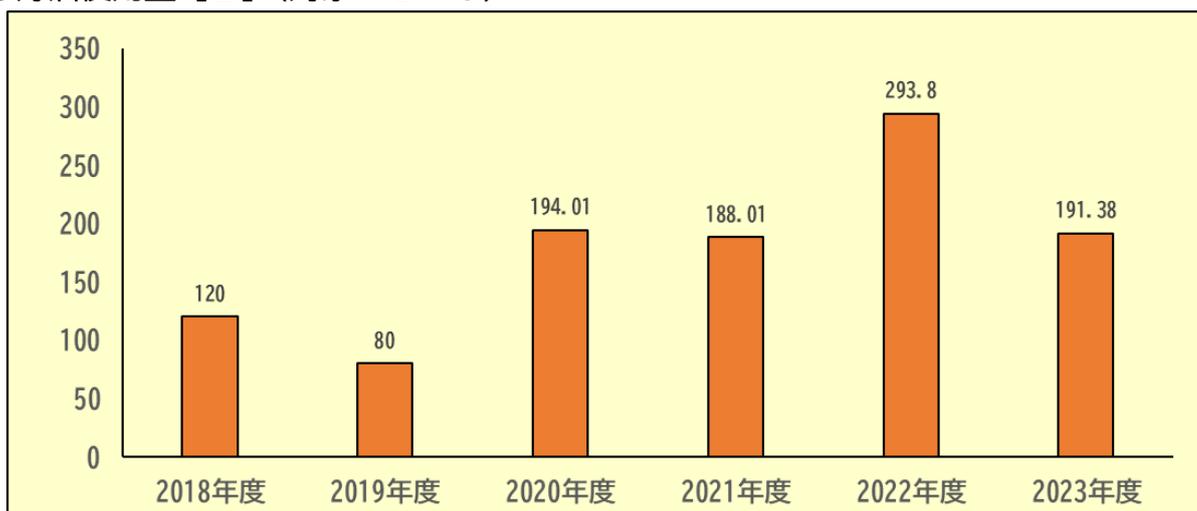
※2018年度に社有車を変更しているため、実績の値に差が出ています。

目標未達成になりました。

社有車が古くなってきたため、次年度の途中で変更する予定です。

次年度は、基準値のデータ収集を行います。

●灯油使用量 [L] (対象：ITC)



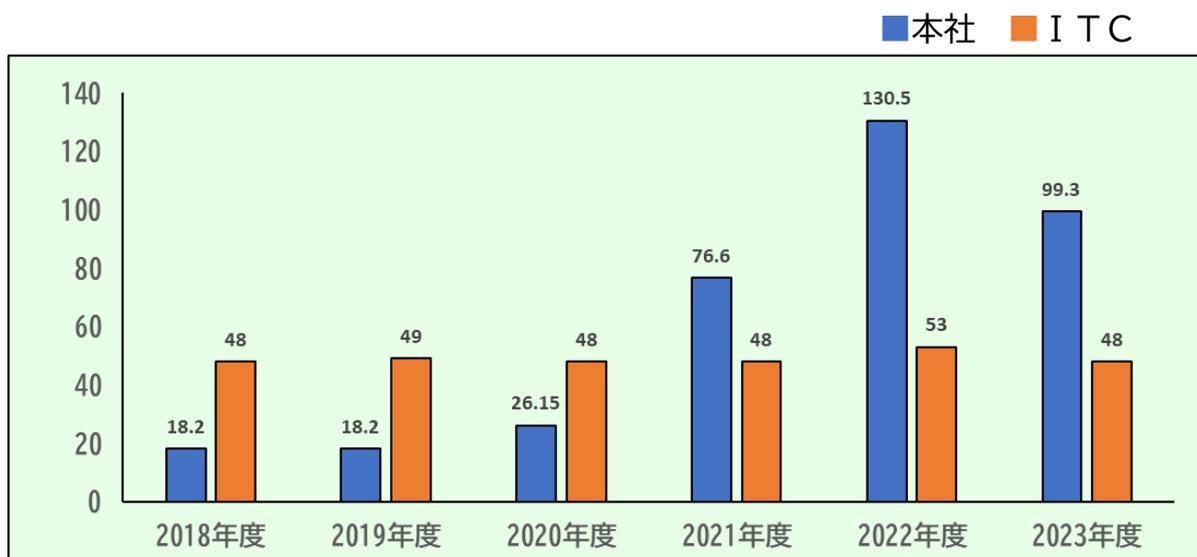
年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	190	188	186	184	182	181
実績	120	80	194.01	188.01	293.8	191.38
評価	○	○	×	×	×	×

目標未達成になりました。

風除室の効果もあり、移転前の事務所と同じくらいの使用量になりましたが、目標の削減率が年々増加していくことが難しいです。また、天候に左右されることが考えられるので、基準値＝目標値として、大幅な増加にならないように努めます。

(3) 一般廃棄物排出量 [k g]

●可燃ごみ



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	44.7	44.2	43.7	43.2	104	103.4
実績	18.2	18.2	26.15	76.6	130.5	99.3
評価	○	○	○	×	×	○

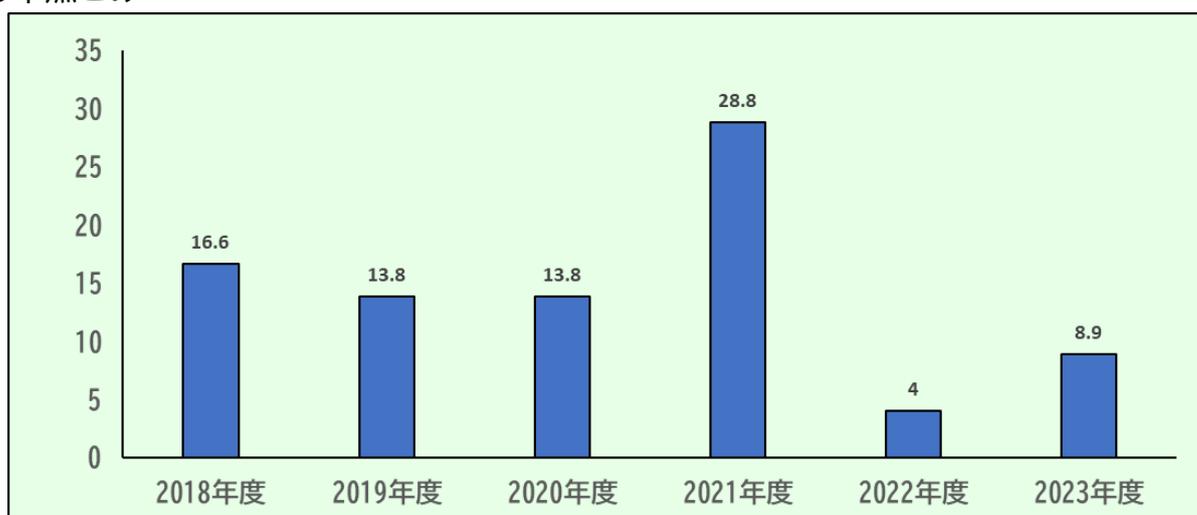
年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標値	51.3	50.8	50.2	49.7	49.1	48.9
実績	48	49	48	48	53	48
評価	○	○	○	○	×	○

本社、I T Cともに目標達成できました。

本社では、昨年度大きく増加してしまいましたが、裏面印刷や用紙リサイクルなどの呼びかけを行うことで、印刷用紙の使用量を抑えることができ、目標達成につながったと思います。基準値は、このまま様子を見たいと思います。

I T Cは、昨年度の移転作業に伴って増加していましたが、今年度は例年通りの排出量になっています。

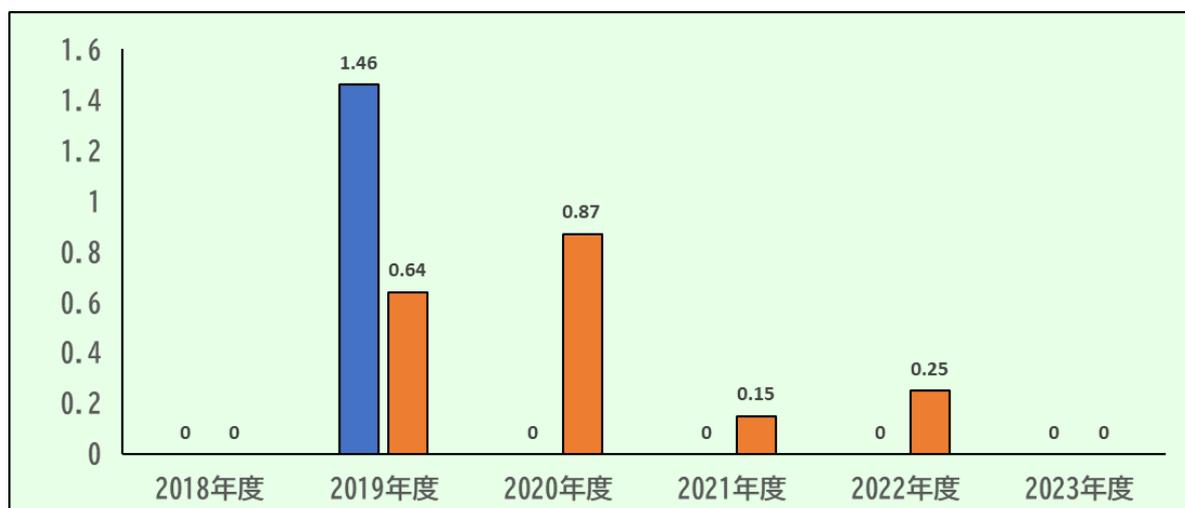
●不燃ごみ



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実績	16.6	13.8	13.8	28.8	4	8.9

金属・ガラス類などの排出がありました。

(4) 産業廃棄物排出量 [t]



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実績	0	1.46	0	0	0	0

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実績	0	0.64	0.87	0.15	0.25	0

本社、ITCともに排出ありませんでした。

9. 環境経営計画の取組結果と評価

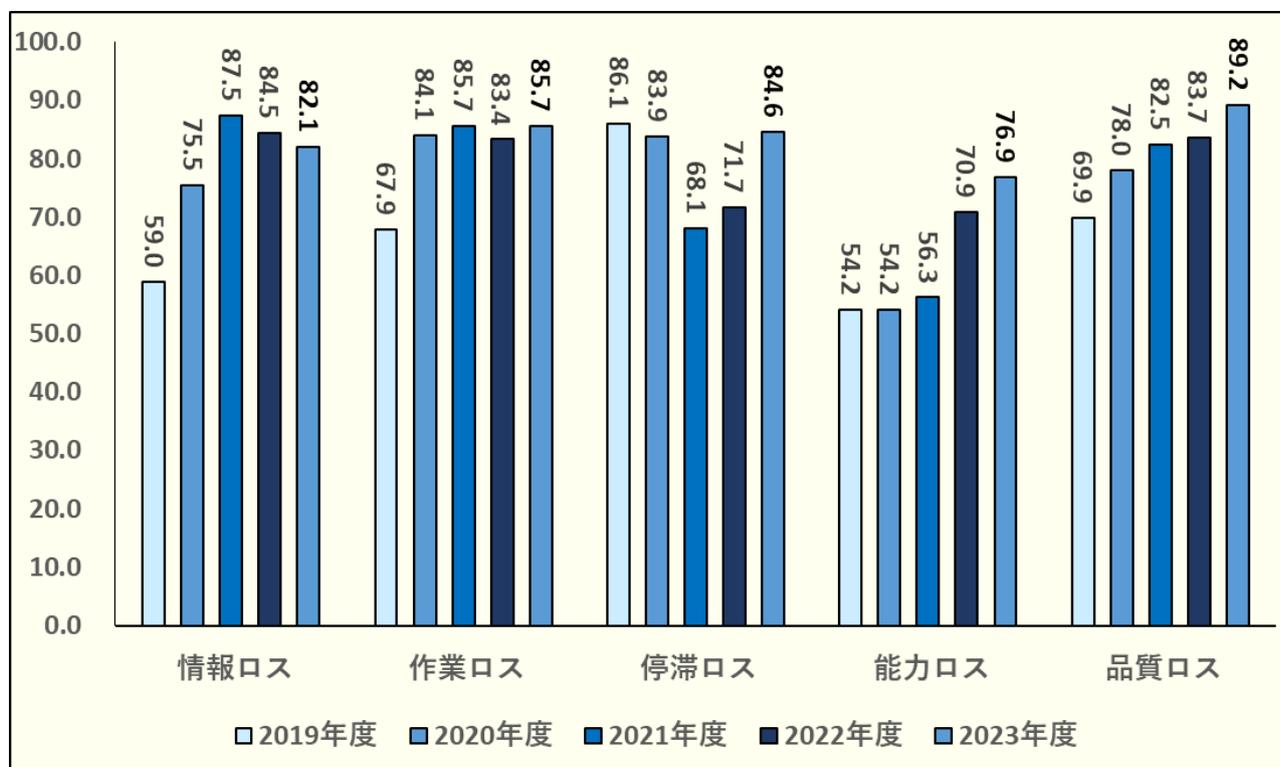
目標を達成するための取り組みの評価を下表に示します。

社内取組み		評価	
水道	洗い物は纏め洗いをを行い、水や洗剤の使用量を減らす。	○	
	節水コマを使用して、流量を抑制する。	○	
	溶剤を下水道に流さない。	○	
CO ₂	電気	使用していない照明、機器の電源をOFFする。	○
		PCやOA機器の省電力設定を行う。	○
		エアコンの設定温度を適切に設定する。	○
		開発製品の省電力設計を行う。	○
		工程の作業効率向上を上げて機器の稼働時間を削減する。	○
	ガス	纏め洗いをを行い、無駄な使用量を削減する。	○
		給湯温度を適切に設定する。	○
	ガソリン	エコドライブの実施。	○
		車両、タイヤの空気圧などの点検を実施して適切な状態にする。	○
	灯油	設定温度を適切に設定する。	○
廃棄物	廃棄物分別の徹底。	○	
	廃棄物の適正処理。	○	
	会議資料の電子化。	○	
	印刷用紙の裏紙使用（両面印刷、メモ帳）。	○	
	梱包材の再利用。	○	
製品設計	顧客のニーズに応え、その分野に適した製品設計を行う。	○	
	生物、環境に害がない（または低い）ものを選択する。	○	
	部品選定時に環境対応品のチェックをする。	○	
	省電力設計を行い、長期使用を実現する。	○	
業務／生産効率	作業の自動化を構築し、作業効率向上を図る。	○	
	生産ラインの自動化を構築し、作業時間の短縮と、作業ミスによる不良の発生を減らす。	○	
反社会的勢力	取引先のチェック。	○	

今年度は、ガソリン燃費の悪化と灯油使用量の増加がありましたが、設備老朽化や目標値が適切な値になっていないと考えられるので、取り組み自体は、全項目で適切に行われていると判断しました。年々目標値に対して厳しくなっている項目もありますが、悪化しないように社内に呼びかけていきたいと思えます。

業務及び生産効率向上のための取り組みの評価を下表に示します。

項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	評価
情報ロス	59.0	75.5	87.5	84.5	82.1	○
作業ロス	67.9	84.1	85.7	83.4	85.7	○
停滞ロス	86.1	83.9	68.1	71.7	84.6	○
能力ロス	54.2	54.2	56.3	70.9	76.9	×
品質ロス	69.9	78.0	82.5	83.7	89.2	○



- 情報ロス：目標の80%を達成しました。継続できるように呼びかけていきます。
- 作業ロス：目標の80%を達成しました。継続できるように呼びかけていきます。
- 停滞ロス：目標の80%を達成しました。継続できるように呼びかけていきます。
- 能力ロス：目標の80%には届かず、76.9%でした。

もう少しで目標達成できそうなので、手順書の作成や、担当者の人に確認するなど、作業を行う人が変わっても同じように作業ができるように呼びかけていきます。

- 品質ロス：目標の80%を達成しました。継続できるように呼びかけていきます。

10. 次年度の環境経営目標・計画

●環境経営目標・環境経営計画

環境マネジメントレビューを実施して、環境経営目標と取組みの結果を見直して、次年度での変更の必要はないという結論になりました。

取組みの中で問題などが発生したら、都度対応していきます。

次年度、I T Cの社有車などの変更があるため、基準値の見直しのためのデータ収集をしっかり行っていきます。

●製品開発と生産

電池駆動の製品が多いので、省電力設計を進めていきます。

昨年度に引き続き、生産工場ラインのはんだ鉛フリー化が進められているので、新規設計製品は、基本的に鉛フリーはんだの使用を、既製品については、変更後の影響がないかなどの確認をしっかり行っていきます。

●業務に関する取り組み

ほとんどの項目で目標達成しているので、この状態を継続できるように呼びかけていきます。目標達成できていない項目については、もう少しで達成できそうなので、改善方法を呼びかけていきます。

1.1. 環境関連法規制等の遵守状況の確認・評価、違反・訴訟等の有無

2023年4月から2024年3月までの間、事業活動に関する関連法規制の違反は、ありませんでした。弊社事業に関連する法規制を下表に示します。

環境負荷の低減に関する関連法規は省略しています。

法規制の名称	対象設備	条項	要求事項	遵守確認方法	遵守確認	
					本社	ITC
フロン排出抑制法	エアコン、 室外機、 恒温槽	H26環告示13号 別表1	室内機・室外機、冷蔵機の簡易 点検の実施	簡易点検(3ヶ月に1回)	○	○
廃棄物 処理法	産業 廃棄物	法第三条	再生利用などを行い排出量を 抑制する	廃棄物の分別状況	○	○
		法第十二条2項	産業廃棄物が運搬されるまで 生活環境に支障がないように 保管する	廃棄物置き場の整理 掲示板の設置	○	○
		法第十二条5項	運搬または処分を他人に委託 する場合は第十四条第十二項 に規定する業者と契約する	運搬・処理業者との契約書	今年度 排出なし	
		法第十二条7項	運搬または処分の状況確認	管理票記載内容の確認		
法第十二条の 三7項	管理票交付者は報告書を作成 し都道府県知事に提出する	管理票交付状況の報告				
化管法	接着剤、 溶剤	法第十四条	当該指定化学物質等の性状 及び取扱いに関する情報を 提供する	購入量などを管理	○	○
消防法	消防設備、 給湯器、 工具など	法第八条1項	避難訓練の実施、 消火設備の使用訓練	年1回の訓練実施	○	○
		法第十七条1項	消防設備の設置・維持	消防設備の動作点検	○	○
RoHS 指令	部材、 製品、 生産ライン	概要	製品に含まれる有害物質の 含有量を規定以下に抑える ※ただし、有鉛はんだ使用 などの判断は、顧客の判断 による(製品を輸出する場合 は必須)	部材のRoHS対応確認、 生産工場への指示、 生産マシン・工具確認	○	○
		生産者の義務	適合性評価の実施と CEマーク表示、 適合証明の技術文書の作成 および保管(10年)、 設計変更時の適合状況確認・ 適合維持	RoHS適合の製品	○	○
電波法	生産製品	法第四条	無線局の開設は総務大臣の 免許を受ける	無線局の免許(技術適合証 明・工事設計認証)取得	○	-
		法第二十八条	送信設備に使用する電波は 総務省令で定めるところに 適合しなければならない	生産時の測定	○	○
		法第二十九条	受信設備は副次的に発する 電波が総務省令で定める 限度をこえて他の無線設備の 機能に支障を与えてはならない	生産時の測定	○	○

遵守確認日：2024年4月18日、確認者：田村(本社)、高橋(ITC)

関連法規が最新であるかの確認は、2024年4月18日に実施しています。

2024年4月から安衛法の化学物質管理者の選任が義務付けられ、リスクアセスメントの実施や、ばく露防止措置対応の徹底が要求事項に挙げられています。

社内では化学物質の取り扱いや、危険性・有毒性についての資料配信などで周知していきます。外注先の生産工場については、外注先の管理者と、ばく露防止措置などの対応を確認しながら、作業者に健康被害が出ないように対応していきます。

12. 代表者による全体評価と見直しの結果

2023年度の全体の活動についての評価結果は次の通りです。

項目		評価の内容
全体評価	環境への取り組みは適切に実施されているか	環境負荷（水道、CO2 排出など）について、適切に取組が行われており、十分に削減できている
	環境経営システムが有効に機能されているか	システムは有効に機能している
見直し	環境経営方針	<input type="checkbox"/> 有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無 変更の必要なし
	環境経営目標	<input type="checkbox"/> 有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無 協力会社などの関係者へも環境方針を周知し、理解と協力を要請してください
	環境経営マネジメントシステム	<input type="checkbox"/> 有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無 現状、変更の必要はないが、必要に応じて見直しを行ってください
	環境経営マネジメント体制	<input type="checkbox"/> 有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無 変更の必要なし

「EA21」の取組を通じ経営に於ける「課題とチャンス」を整理し、明確にして環境経営方針、環境経営目標に反映してまいります。

2024 4月22日

代表取締役 小林 和夫